

太陽光で充電、夜点灯

光る矢印板 逆走なくせ

自動車による逆走事故が相次ぐ折、小松市今江町の建材メーカーが、太陽光で充電し夜間に点灯する矢印板を開発した。通常の反射板に比べ、視認性が高く、道筋が明確に分かるという。県警によると、県内では昨年四件の逆走事故が発生しており、メーカーは「痛ましい事故の防止につながれば」と願う。(青山直樹)

小松の「イケガミ」開発 道筋くっきり



①イケガミが開発したクッションドラムと矢印板 ②暗闇で光る矢印板(イケガミ提供) ③いずれも小松市で

このメーカーは「イケガミ」。六月末に完成させた矢印板は、同社が開発した円柱の緩衝材「ソーラー式LEDクッションドラムⅡ」に取り付ける。ドラム

上部に太陽光電池パネルが設置され、昼間に充電して夜に自動的に点灯する。発光ダイオード(LED)を使い、ドラム本体が赤に、矢印が白に交互に点灯する。

県内では金沢市で今年三月、国道を逆走したワゴン

車と大型トラックが正面衝突し、二人が重軽傷を負う事故があった。ドラムと矢印板は道路の分岐点や中央分離帯付近に置き、導線を示し事故防止に役立てる。

国土交通省によると、高速道路での逆走は昨年、全国で二百件あった。六割がインターチェンジ(IC)とジャンクション(JC)で発生し、七十五歳以上による逆走が全体の半数近くを占めるという。イケガミはICなどの出入り口付近への設置も想定する。

ドラムは一月、夜間の視認性が高く、経済的に優れているとして、国交省の新技术情報提供システム(NETIS)に登録された。

県や国などに納め、各地で幅広く使われている。池上茂雄社長(☎)は「太陽光で充電するので、電気工事が不要。被災地への寄贈なども考えたい」と話す。☎イケガミ0761(24) 2322

